

南オーストラリア州の SACSA の基本的な構想に関する一考察

——「社会と環境」の領域に焦点をあてて——

木村 裕

1. はじめに

本稿の目的は、オーストラリア連邦の南オーストラリア州において作成された「南オーストラリア州のカリキュラム、スタンダード、アカウンタビリティ (South Australian Curriculum, Standards and Accountability : 以下、SACSA)」¹の基本的な構想を、主に「社会と環境 (Society and Environment)」の学習領域に焦点をあてて検討することである。SACSA は、2001 年に公布され、今日の南オーストラリア州における初等・中等学校のカリキュラムを強く規定する枠組みとなっている。

SACSA に注目するのは、主に以下の 2 つの理由からである。1 つ目は、この SACSA が、南オーストラリア州の学校教育の場における教育活動を考える際に、必ず考慮すべき枠組みであるという点である。すなわち、教育活動を構想する際には、それを SACSA といかに関わらせながら学校教育の中に位置づけ、実践していくのが重要な課題となっている。2 つ目は、各学習領域における発達段階に応じた具体的目標と、そこに到達したかどうかを評価するためのスタンダードが示されているという点である。本論で詳しく述べるように、SACSA では具体的目標とスタンダードを示すことによって、すべての子どもたちに、一定の力を身につけさせることをめざしている。こうした発想は、国として一定レベルの教育成果の達成をめざすというオーストラリアの教育改革を象徴する動きの 1 つとして注目すべきものである。しかしながら、その具体像を詳しく検討した先行研究は、管見の限り見られない。こうした理由から、本稿では、SACSA の基本的な構想について検討するという課題に迫りたい。

そのために、以下の流れに沿って検討を進める。まず、SACSA の概要を示す。具体的には、SACSA が作成された背景、SACSA の理念、そして、SACSA の枠

組みにおいて示されている、学校教育全体を通して学習者に身につけさせたい力であるエッセンシャル・ラーニング (Essential Learnings) の内容を概観する。

続いて、「社会と環境」の領域に焦点をあてて、その基本的な構想について検討する。具体的には、教育目的、スコープ、スタンダードについて概観する。

以上を踏まえて、最後に、SACSA の構想がオーストラリアの学校教育にとってどのような意義を持っているのか、また、今後乗り越えてゆくべき課題とは何かについて考察する。

2. SACSA の概要

本章では、南オーストラリア州において SACSA が作成された背景、理念、およびエッセンシャル・ラーニングの内容を概観する。

(1) SACSA 作成の背景

オーストラリア連邦は、6 つの州と 2 つの政府直轄領から成る。1901 年の独立以来、各州・直轄領の自治権が強いオーストラリア連邦においては、初等・中等教育は各州・直轄領が統括しており、高等教育は連邦政府が統括している。そのため、各州・直轄領ではそれぞれが独自の教育制度を定め、実施してきた。しかしながら 1980 年代に入り、経済の分野を中心に国際競争力をつける必要性が高まる中で、教育による人材育成が鍵を握るとの認識がオーストラリア国内においても広がった。それに伴い、国家レベルで教育水準を高めることを主な目的として、ナショナル・カリキュラム策定の必要性が議論されるようになった。

こうした認識の高まりを背景に、1989 年にオーストラリア教育審議会 (Australian Education Council) の第 60 回会議で採択された「学校教育に関するホバート宣

言 (the Hobart Declaration on Schooling)」(以下、「ホバート宣言」)において、ナショナル・カリキュラム開発の基本理念である「オーストラリアの学校教育の共通で合意された国家目標 (Common and Agreed National Goals for Schooling in Australia)」が掲げられた。これを受けて、1991 年の第 64 回オーストラリア教育審議会において、ナショナル・カリキュラム開発の対象として「英語」「算数・数学」「科学」「社会と環境の学習 (Studies of Society and Environment)」「科学技術」「芸術」「健康と身体教育」「英語以外の言語」の 8 つの教育領域が設定された。さらに、1994 年までに各領域に関するステイトメント (Statement) とカリキュラム・プロファイル (Curriculum Profile) が作成された。ステイトメントは各領域で扱うべき学習領域と各学校段階に対応した学習レベルを示した文書であり、カリキュラム・プロファイルは授業後の子どもたちの標準的到達水準を示した文書である。佐藤によれば、両者は教育課程の内容と成果という観点から相互に関連している²。国家目標およびステイトメントとカリキュラム・プロファイルの策定によって、各州・直轄領における教育には一定の方向性が示されるとともに、その国家目標を達成することが求められることとなった。こうすることで、国家レベルでの教育水準の引き上げがめざされたのである。しかしながら、このステイトメントおよびカリキュラム・プロファイルは法的拘束力を持つものではなかったため、初等・中等教育に対しては依然として各州・直轄領が自治権を有しており、国家目標を意識しつつも、独自の教育制度を定めるという状況が続いていた。

その後、ホバート宣言を改定したものとして、1999 年に「アデレード宣言：21 世紀における学校教育に関する国家目標 (The Adelaide Declaration on National Goals for Schooling in the Twenty-First Century)」(以下、「アデレード宣言」)が出された。そこでは、基礎学力やシティズンシップの育成などに力を入れるべきことが示されるとともに、その成果を目に見えるかたちで示すことが強調された。それに伴って、教育に関する国家目標を達成するために、各州・直轄領でスタンダードの開発や学習内容の具体化などの作業が進められた。その成果として南オーストラリア州でまとめられたのが、本稿で取り上げる SACSA である。

(2) SACSA の理念

SACSA は、学校教育全体を通して学習者に身につけさせたい力と、各学習領域における発達段階に応じた到達目標、そしてそこに到達したかどうかを評価するためのスタンダードから成っている。その根底には、今日では新たな知識の獲得だけではもはや十分ではなくなり、情報の選択と分析を行ったり、様々な知識を批判的に理解したりするなどの、知識を管理する能力を持つことが重要となってきたという認識がある³。

こうした認識のもとに作成された SACSA では、すべての子どもが、

- 倫理的かつ社会的に責任のある社会の一員であり、自身の、そして集団のアイデンティティに対する強い感覚を持ち、他者のアイデンティティを尊重する。
- 決定に対してよく考え、責任を持つとともに、関係を持ち、アイデアを提起し、革新的な問題解決を行う。
- 礼儀正しい個人間の関係を構築するとともに、ローカルなコミュニティやグローバルなコミュニティにおいて、活動的な役割を果たす。
- 遺産を尊重しながら、起こりうる未来に貢献し、それを形づくる。
- リテラシーやニューメラシー、情報通信技術 (ICT) の力と可能性を利用する、優れた情報伝達者である。

という特徴を持つ市民かつ生涯学習者になることがめざされている⁴。

SACSA では、「アデレード宣言」を受けて、8 つの学習領域 (「芸術」「デザインと科学技術」「英語」「健康と身体教育」「言語」「算数・数学」「科学」「社会と環境」)を設定している⁵。そして、子どもの学習を継続的にモニタリングすることによって、すべての子どもの学習成果を保証することがめざされている。そのために、学校教育全体を通して学習者に身につけさせたい力を「エッセンシャル・ラーニング」というかたちで示している。

ただし、SACSA の枠組みは、規定された一連の知識を示しているわけでもなければ、特定の教授方法の採用を求めているわけでもない⁶。すなわちそこでは、学

校教育を考える際に考慮すべきポイントを示すことにとどまり、それらを考慮しながら、各学校、各教師が具体的なカリキュラムや授業づくりを行うことが想定されているのである。

(3) SACSA におけるエッセンシャル・ラーニング
エッセンシャル・ラーニングとは、全学習領域を通して発達させられ、誕生から第 12 学年、そしてそれ以上の年齢の子どもの学習に不可欠な部分を形成するための理解やディスポジション、能力であるとされ

【表 1 : SACSA におけるエッセンシャル・ラーニングの具体的内容】

エッセンシャル・ラーニング	エッセンシャル・ラーニングの様相
未来	
望ましい未来を創造する際に、機会を最大限にするために求められる知識やスキル、ディスポジションとは何か？ 学習者が発達させるのは、 - 望ましい未来の創造に活動的に貢献するための自身の能力に関する楽観主義の感覚 - 望ましい未来を形づくるために、批判的に振り返り、計画し、行動を起こすための能力	そこに含まれるのは、 - 諸システムのパターンと関連についての理解 - 未来の挑戦について分析するときの、世界の見方についての理解 - 望ましい未来のシナリオの作成 - 生涯学習の実施
アイデンティティ	
自己のアイデンティティやグループのアイデンティティ、そしてそれらの関係を批判的に理解するために求められる知識やスキル、ディスポジションとは何か？ 学習者が発達させるのは、 - 個人やグループのアイデンティティに対する感覚 - 批判的に振り返り、計画し、行動を起こして関係を形づくることに貢献するための能力	そこに含まれるのは、 - 自身やグループ、他人についての理解 - アイデンティティの社会的構築についての理解 - 他者と、そのアイデンティティに関係なく、効果的に関係を構築したり協働したりすること
相互依存	
生活と関連づけられている諸システムを批判的に理解し、それらを形づくる際に積極的に参加するために必要とされる知識やスキル、ディスポジションとは何か？ 学習者が発達させるのは、 - 世界と関係しているという感覚 - ローカルなコミュニティやグローバルなコミュニティを形づくるために、批判的に振り返り、計画し、行動を起こすことに貢献するための能力	そこに含まれるのは、 - 文化的な関連やグローバルな関連、パターン、展開についての理解 - 持続可能な社会的環境や物理的環境にとって必要となるものについての理解 - 合意された結果の達成に向けた、協働的な行動 - コミュニティに利益をもたらすような、市民としてふさわしい行動をとること
思考	
ある特定の心の傾向 (habits of mind) を発達させ、創造と革新を行い、解決策を生むために求められる知識やスキル、ディスポジションとは何か？ 学習者が発達させるのは、 - 創造性や機知、冒険心 (enterprise) の持つ力の感覚 - アイデアと解決策を批判的に評価し、計画し、生み出すための能力	そこに含まれるのは、 - 広範な思考モデルの利用 - 広範な時代や文化から得られる考え方の利用 - 冒険的な性質を示すこと - 現代的諸課題に対する、冒険的で創造的な解決法への着手
コミュニケーション	
意味を構成したり解体したり、コミュニケーションの力やコミュニケーションテクノロジーを批判的に理解するために求められる知識やスキル、ディスポジションとは何か？ 学習者が発達させるのは、 - リテラシーやニューメラシー、ICT の持つ力と可能性に関する感覚 - リテラシーやニューメラシー、ICT の強力な使用を通して、現在や未来を批判的に振り返り、形づくるための能力	そこに含まれるのは、 - 言語やデータの持つ複雑さや力、そしてそれらがコミュニケーションにおいて持っている枢要な (pivotal) 役割についての理解 - コミュニケーションがどのように作用するのかについての理解 - 言語や数学的なツール、ICT のツールの効果的な使用 - 同定された結果を達成するための、広範なコミュニケーション形態の利用

(表は、South Australia (Department of Education, Training and Employment), *South Australian Curriculum, Standards and Accountability Framework*, DETE Publishing, Australia, 2001, p.5 を筆者が訳出)

ている。そしてそれらは、生涯を通して要求され、思慮深く、活動的で、責任感があり、明確な社会意識を持った、ローカル、ナショナル、そしてグローバルな市民として、変化の時代に生産的に関わることを可能にするような力量であるとされている⁷。その具体的な内容は、表1に示したとおりである。

表1から分かるように、エッセンシャル・ラーニングの獲得を通して、望ましい未来の創造に積極的に関わることのできる人間の育成がめざされている。そしてそのためには、自他についての理解を深めること、自他とまわりの社会や自然などとの関わりを知ること、直面する諸課題について多角的かつ批判的に考え、他者と協力してその解決に取り組むこと、様々なツールを用いて他者とのコミュニケーションをはかることなどが重要であると考えられている。つまり、こうした

力量を身につけることで、ローカル、ナショナル、グローバルな市民となることが想定されていると言える。

3. 「社会と環境」の領域に見られる評価計画

SACSA ではエッセンシャル・ラーニングの獲得を達成するために、各学習領域について、獲得すべき力量の中身と、そこへの到達を判定するためのスタンダードが示されている。ここでは、「社会と環境」の領域に焦点をあてて、その具体像を明らかにする。

(1) 身につけさせるべき力の具体的内容

「社会と環境」を通した学習の究極的な目的は、子どもたちが、グローバルなコミュニティの中にある民主的な社会において、倫理的で、活動的で、知識を持った市民 (informed citizens) として、広範な方法で参

【表2：「社会と環境」の学習領域において子どもたちに獲得させるべき力の具体的内容】

知識・理解・正しく評価する力	・ローカルな、ナショナルな、そしてグローバルな社会、長い時間をかけて変化しつつある環境、そして（自然、社会文化、経済、法律、政治）システムについて。 ・環境と社会との間にある相互作用の性質、原因と結果、環境と社会との相互依存について。 ・社会の中に存在する権力、権力関係、不平等、そして富の分配について。 ・文化的多様性、社会的結束、人々が持っている様々なパースペクティブについて（長い時間をかけてこれらは発達し、変わっていくということを認めながら）。 ・新たな知識や技術、人口構図 (demographic patterns) が生まれることによって出現する新たな職業について。
スキル	・社会の批判的な探究——歴史的な文脈、分布様式と空間的關係 (spatial patterns and relationships)、社会的・文化的な相互作用と関係、そして社会システムに関する調査と熟考——を行うスキル。 ・環境観測、フィールドワーク、価値判断 (appraisal)、分析と行動を行うスキル。 ・過去、現在、未来の文脈から、様々なパースペクティブを建設的に批判するためのスキル。 ・行動を計画し、実践するために、代案を評価し、意思決定を行い、協働的な努力を行うためのスキル。 ・個人的な機会、仕事上の機会、そしてコミュニティが持っている機会を見つけてそれらを生かし始めるとともに、それらを管理するためのスキル。 ・職業や教育、訓練、そしてその他の活動に関する未来のチャンスに備えて、人々と環境との建設的かつ肯定的な相互作用を行うためのスキル。
価値観と態度に関する諸問題を検討する能力	・様々な決定や行動、関係が暗示するものを理解し、評価する能力。 ・民主主義のプロセスや社会的公正、環境の持続可能性の中に、明に暗に見られる価値観や態度を批判的に検証し、明確にする能力。 ・人々の持つ多様なパースペクティブや文化的・歴史的背景を尊重し、高く評価するとともに、平和的な関係に向けて活動する能力。 ・偏見や人種差別、性差別、差別やステレオタイプ化などを認識し、立ち向かう能力。 ・そうなるであろう未来、起こりうる未来、そして望ましい未来 (probable, possible and preferred future) について考察し、その代案を想像・評価するとともに、現在と未来に影響を与えるために自身が持っている能力を経験的に知り、正当に評価する能力。
社会的に責任ある行動に責任を担う能力	・すべての生物によって共有されている相互依存の生物圏と、グローバルな関連が増えつつあるローカルな社会政治学的な経済 (local sociopolitical economy) において生活するということへの認識を高めた結果として、社会的に責任ある行動をとる能力。 ・積極的な市民はどのようにして身のまわりの世界の改善に貢献しうるのか、ということに関する社会的・環境的な認識と気づきを学習者が発達させることと並行して、社会的に責任ある行動をとる能力。

(表は、South Australia (Department of Education, Training and Employment), *South Australian Curriculum, Standards and Accountability FRAMEWORK: Early Years Band (Birth to Year 2)*, DETE Publishing, Australia, 2001, pp.289-290 を筆者が訳出)

加するのを可能にするような知識や技能、価値観を発達させることである⁸。そしてこの究極的な目的を達成するために、「社会と環境」の学習領域においてすべての子どもたちに獲得させるべき力が、「知識・理解・正しく評価する力 (appreciation)」「スキル」「価値観と態度に関する諸問題を検討するための能力」「社会的に責任ある行動に向けた能力」に分類して挙げられている⁹。表2は、その具体的な内容を示したものである。

表2を見てみると、まず、社会や環境、諸システム、それらの相互依存関係、権力関係や不平等の状況、多様性などについて理解し、知識を持つことがめざされていることが分かる。また、諸問題について多角的かつ批判的に検討し、他者と協働しながらその解決に向けて取り組んでいくためのスキルを獲得することがめざされている。その際、特に、自他の価値観やパースペクティブを尊重するとともにそれらを批判的に検討することや、社会的に責任ある行動をとることが重視されていることも分かる。こうした力を身につけることによって、先述のエッセンシャル・ラーニングとして示されている力の獲得につなげていくことがめざされているのである。

(2) 「社会と環境」の領域のスコープとスタンダード

先述した目的を達成するために、SACSA では「社会と環境」の学習領域の中に、「時間、継続性、変化」「場所、空間、環境」「社会と文化」「社会システム」という4つのストランド (strands: 就学前から第12学年までの学習領域に関するスコープとスタンダードのための、概念上の形成体 (conceptual organisers)) を設定しており、各学校はこれらにしたがって教育活動を進めていくことが求められている。

「時間、継続性、変化」のストランドでは、人々の過去の生活について理解し、高く評価することと、現在および未来に対する批判的な思考を発達させることが強調されている¹⁰。「場所、空間、環境」のストランドの強調点は、ローカルな、リージョナルな (regional)、そしてグローバルな場 (settings) において見られる、人々と自然環境や人的環境との複雑な相互関連や相互作用、相互依存について理解することにある¹¹。また、「社会と文化」のストランドでは、個人や集団のアイデンティティの諸相について理解し、正當に評価し、

それを伝えることが強調されている¹²。そして最後の「社会システム」のストランドでは、政治システムや法システム、経済システムの中にある様々な場での、人々やグループの権利と責任および役割と関係について分析し、理解することが強調されている¹³。なお、これら4つのストランドは互いに関係しており、また、同等の重要性を持っているとされている¹⁴。

SACSA では、これら4つのストランドのそれぞれについて「鍵となる概念のスコープ (Scope Key Ideas)」と「スタンダード」を提示している。これらは、子どもの発達段階に応じて、数段階に分けて記述されている。紙幅の都合上、すべてのストランドに関するスコープとスタンダードを示すことは難しいため、ここでは「社会と文化」のストランドに焦点をあてて、その実際を見ていく。次ページの表3は、「社会と文化」のストランドにおけるスコープとスタンダードを示したものであり、表4は、「社会と文化」のストランドに関する第12学年のスタンダードを示したものである。

まず、スコープについて見てみよう。スコープは、就学前教育から第2学年までを含む Early Years Band、第3学年から第5学年までを含む Primary Years Band、第6学年から第9学年までを含む Middle Years Band、第10学年から第12学年までを含む Senior Years Band の4つのまとまりごとに示されている。そして、それぞれのまとまりごとに、「知識」「スキル」「価値観と積極的な参加」という3つの視点から、具体的な内容が定められている (それぞれのまとまりに示されている3つの項目は、これら3つの視点と対応するかたちで設定されている)¹⁵。1つの学年ごとに示すのではなく、一定の幅を持たせてスコープを設定することにより、カリキュラムや授業づくりに柔軟性を持たせていると考えられる。

次に、スタンダードについて見てみよう。スタンダードは、第2学年修了程度を示す「スタンダード1」、第4学年修了程度を示す「スタンダード2」、第6学年修了程度を示す「スタンダード3」、第8学年修了程度を示す「スタンダード4」、第10学年修了程度を示す「スタンダード5」、そして第12学年修了程度を示す「第12学年のスタンダード」の6種類から成る。ただしこれらは、各学年に合ったスタンダードに達しているかどうかのみを調べるものではない。2年ごとのス

【表3：「社会と文化」のストランドにおけるスコープとスタンダード】

社会と文化			
	スコープ	スタンダード	
Early Years Band (就学前—第2学年)	- 子どもたちは多様な価値観や信条、人々の集団の実践に対する理解を発達させながら、個人個人に共有された特徴や独特の特徴を探し、見つけ、認識し、尊敬・尊重することを学ぶ。 - 子どもたちは、オーストラリアの先住民やそれ以外のオーストラリア人、オーストラリア以外のアジア太平洋地域に住む人々の伝統的な物語のパターンや実践、今日の生活を同定し、探究する。 - 子どもたちは、自分の文化や信条、アイデンティティの肯定的な側面を見つめ、尊敬し、尊重するとともに、他者の持つそれらに対する理解を発達させる。	1.7 すべての人々は同じではないが、共通する特徴も持っているということと、様々な方法で、ローカルな、そしてより広いコミュニティに貢献しているということを理解する。 1.8 ローカルなアボリジニの物語や、自分たちとは異なる文化からの物語に耳を傾け、語り直すとともに、彼らとオーストラリア人との関係を説明する。 1.9 自身とは異なる視点から見たり、それらを尊重したりするための能力を示す。	スタンダード1 (第2学年)
Primary Years Band (第3学年—第5学年)	- 児童は、オーストラリア社会に住む人々の文化遺産について、また、文化が家族や集団、コミュニティによって伝えられ、維持され、発展される方法について議論し、検証する。彼らは、文化的なアイディアや実践がどのようにしてわれわれ全員に影響を与えるのかを説明する。 - 児童はアボリジニとトーレス海峡島嶼民のコミュニティを含む集団から学ぶことや、それらの集団と情報伝達をし、相互作用をする際のスキルを高める。それによって、文化的多様性を尊重し、調和(Reconciliation)のための活動に参加する。 - 児童は、自他の行動や時事問題の中に埋め込まれている価値観を見つけ、明確にし、分析する。	2.7 集団やコミュニティの実践や習慣、伝統の多様性を記述する。 2.8 アボリジニやトーレス海峡島嶼民の多様性や彼らの文化の多様性、過去と現在、そして調和のための動きについて記述する。 2.9 より広いコミュニティにおける文化的な経験や出来事に参加し、それを共有するとともに、それらに埋め込まれている価値観を分析する。	スタンダード2 (第4学年)
Middle Years Band (第6学年—第9学年)	- 児童・生徒は、社会的結合を維持するとともに、文化的多様性を促進するために、オーストラリアや他国にあるコミュニティが模索している方法を批判的に分析する。これらの洞察を用いながら、望ましい未来に向けた戦略を考案し、発達させる。 - 児童・生徒は、オーストラリアに住むアボリジニやトーレス海峡島嶼民、その他の集団の人々の遺産に対する認識と鑑賞力を高めるような研究のスキルや社会的スキルを発達させる。そして、偏見を見つけ、立ち向かうための能力を発達させるとともに、調和に貢献する。 - 児童・生徒は、個人やグループの民主的な権利や人権を高めるとともに、偏見や人種差別主義、ハラスメント、あるいは抑圧に対抗するために、状況を分析し、責任ある行動をとる。	3.7 個人や集団のアイデンティティや結束、オーストラリア国内外の文化的多様性の尊重に寄与する要因について考える。 3.8 田舎や都市に住むアボリジニの人々や他のマイノリティの人々から、彼らの歴史や今日の経験について学ぶとともに、偏見に立ち向かうための行動を起こす。 3.9 責任と他者に対する敬意を持って(responsible and respectful)グループディスカッションに参加するとともに、チームで、コミュニティの文脈で人権を高めるための社会的行動を計画し、協議する。	スタンダード3 (第6学年)
		4.7 オーストラリアの多文化社会における不調和や紛争の原因について調査し、分析するとともに、議論(dispute)の平和的な解決に向けた戦略を提案する。 4.8 田舎や都市に住むアボリジニの集団の歴史や文化、今日の経験を比較しながら、彼らの文化的実践(cultural practices)を批判的に理解するとともに、調和に向けた行動を起こす。 4.9 集団や文化、国同士や国を超えて、人々や集団の人権との関係から倫理的な振る舞いを高めるために、他者とともに研究し、関与する(engage)。	スタンダード4 (第8学年)
Senior Years Band (第10学年—第12学年)	- 生徒は、社会や文化がどのようにして、また、なぜ、時を経るにつれて発展し、変化するのかを調査する。そして、これらの変化が個人や集団のアイデンティティに与える影響を探究する。 - 生徒は、他の社会の文化と同様に自分たちの社会の文化に影響を与えている諸問題について研究し、批判的に分析する。生徒は、講演者の話を聞いたり、インタビューや社会調査を計画して実施したり、社会の中にある特定の集団や機関のメンバーを巻き込んで、他の探究方法を用いたりしながら、これを行う。 - 生徒は、広範な文化的・社会的実践や信条、価値観についての理解を伝え合ったり、それに則って行動したりするとともに、差別やステレオタイプ化に立ち向かうための戦略を発達させる。	5.7 研究を通して批判的に検証するとともに、特定の、社会的・政治的・経済的な信条や概念、政策、実践に関する個人的な視点を正当化する。 5.8 今日、ローカルな、あるいは他の土地に住むアボリジニの人々にとって重要なセルフ・マネジメントや土地の保全を含めて、複雑な社会的・文化的・環境上の諸問題や戦略を見つめ、分析する。 5.9 社会構造としての偏見に関する批判的な理解について分析し、示すとともに、個人的な知識や態度、行動を通して差別に対抗するために行動を起こす。	スタンダード5 (第10学年)
		表4を参照	第11学年のスタンダード

(表は、South Australia (Department of Education, Training and Employment)による、Society And Environment に関するリーフレット Scope: Key Ideas Overview および Standards: Outcomes Overview をもとに筆者が作成)

【表4：「社会と文化」のストランドに関する
第12学年のスタンダード】

社会と環境に関する第12学年のスタンダードは、外部のカリキュラムからのスタンダードとともに示されているエッセンシャル・ラーニングの能力から構成されている。

外部のカリキュラムは、オーストラリア資格フレームワークあるいはそれに相当するもの (Australian Qualifications Framework or equivalent) の下にその権威を認められていることによって、第12学年段階の質を保証されている。

エッセンシャル・ラーニングとは、

- ・未来 (Futures)
- ・アイデンティティ (Identity)
- ・相互依存 (Interdependence)
- ・思考 (Thinking)
- ・情報伝達 (Communication)

である。

外部のカリキュラムは、以下のものによって定義されている。

●該当する SACE のカリキュラム・ステイトメント (SACE Curriculum Statements)

- ・アボリジナル・スタディーズ
- ・会計学 (Accounting)
- ・会計研究 (Accounting Studies)
- ・農業と園芸の科学 (Agricultural and Horticultural Science)
- ・農業と園芸
- ・古代史
- ・オーストラリアの歴史
- ・オーストラリアの法制度
- ・ビジネス研究
- ・古典文学研究 (Classical Studies)
- ・経済学
- ・地理
- ・地理研究 (Geography Studies)
- ・歴史研究 (Historical Studies)
- ・法研究
- ・海事研究 (Maritime Studies)
- ・メディア製作と分析
- ・中世史
- ・近代史
- ・天然資源とその管理
- ・政治学
- ・オーストラリアにおける宗教
- ・小企業 (Small Business Enterprise)
- ・社会科 (Social Studies)
- ・宗教の学習 (Studies of Religion)
- ・ツーリズム
- ・女性学 (Women's Studies)

●VET (Vocational Education and Training) 国家トレーニング・パッケージ (VET National Training Packages)

●オーストラリア資格フレームワークあるいはそれに相当するものの下に、適切な権威によって資格を与えることが認められている、第12学年レベルに相当する他のカリキュラム

(表は、South Australia (Department of Education, Training and Employment)による、Society And Environment に関するリーフレット *Standards: Outcomes Overview* をもとに筆者が作成)

タンダードを設定することによって児童・生徒の学習の到達状況を細かく把握するとともに、その結果を学習の改善に役立てることも意図しているのである。

4. SACSA の持つ意義と課題

以上を踏まえて、最後に、SACSA の構想がオーストラリアの学校教育にとってどのような意義を持っているのか、また、今後乗り越えてゆくべき課題とは何なのかについての考察に移りたい。

意義としては、以下の2点を指摘することができる。

1点目は、カリキュラム全体を通して児童・生徒に身につけさせたい力を明示するとともに、スタンダードを示すことによって、児童・生徒の学習状況を丁寧に把握し、その改善やさらなる向上に向けて必要となる取り組みを考える機会を保障することがめざされているということである。いくら具体的な目標が示されたとしても、その目標を達成しているかどうかを評価することができなければ、その向上や改善を行うことはできない。したがって、目標設定と評価計画の構想の双方を行っている点に、SACSA の意義を見出せる。

2点目は、内容に関するものである。1996年から続く現行の連邦政府を率いるハワード (Howard, J.) 政権の政策は、多文化主義の深化・発展やアジア太平洋国家の一員としての国づくりを進めていた労働党政権の政策を否定し、白豪主義への憧憬さえ感じさせると評されている¹⁶。すなわち、多文化への寛容や協調などが否定されかねない政策が進められているのである。しかしながら、SACSA においてはここまで見てきたように、多様性の尊重や調和に向けた取り組み、先住民の人々の持つ歴史や文化の尊重などが重要なものとして位置づけられている。また、社会の批判的な検討を通して、望ましい未来の創造に向けた取り組みを行うことも重視されている。これらの特徴は、オーストラリアにおいてこれまでに築き上げられてきた、多文化社会における教育の取り組みの蓄積を継承するものであると考えられる。このように、連邦政府の政策の影響を受けながらも、オーストラリアの教育実践がこれまでに蓄積してきた多文化の尊重や共生という側面を堅持している点にも、SACSA の意義を指摘できよう。

一方、課題としては以下の2点を指摘することができる。1点目は評価方法についてである。SACSA では

評価基準がスタンダードというかたちで示されているものの、どのような評価方法をとるのかについては言及されていない。SACSA で身につけさせようとしている力量は、ペーパーテストなどによって測ることが難しい、いわゆる「高次の学力」と呼ばれるものである。したがって、各学校において評価方法を工夫するとともに、SACSA においても、有効な評価方法の例示などを行う必要があるだろう。

2 点目は、スタンダードの明確化とその達成への強い要求が教育活動を制限することにつながる危険性についてである。すなわち、スタンダードが明確化されるとともに、スタンダードの達成によって教育成果が評価されることにより、教育活動の目的が示されたスタンダードの達成に矮小化されてしまい、学校教育の多様性が損なわれてしまうことにつながる危険性がある。したがって、SACSA の持つ拘束力に配慮しつつ、教育活動の多様性をいかにして尊重していくのかを十分に検討する必要があるだろう。

5. おわりに

ここまで、南オーストラリア州において作成された SACSA の基本的な構想を、主に「社会と環境」の学習領域に焦点をあてて検討してきた。最後に、オーストラリアの学校教育を取り巻く動きが SACSA に対して及ぼしうる影響に目を向けることによって今後の研究課題を明らかにし、本稿の結びとしたい。

オーストラリア連邦政府は、リテラシーやニューメラシーといった基礎学力の向上をめざした取り組みのみならず、シティズンシップ教育や価値教育を全国的に推進している。これらはオーストラリアを支える市民の育成をめざしたものであるが、子どもたちに画一的な価値観を押しつけてしまうという危険性を抱えている。これは、多様性の尊重や社会の批判的な検討を行うといった、SACSA におけるエッセンシャル・ラーニングや「社会と環境」の学習領域における強調点を軽視することにつながりかねない動きである。

こうした状況に鑑みると、今後はますます、教育をめぐる動向と、それが SACSA に及ぼしうる影響を注意深く見ていく必要があるだろう。それと同時に、今日のオーストラリアにおいて進められている教育改革が、白豪主義から多文化主義への転換のもとに進めら

れてきたこれまでの教育活動に対してどのような意味を持つのかについての検討も合わせて行う必要があると考えられる。以上を今後の課題としたい。

注

- ¹ South Australia (Department of Education, Training and Employment), *South Australian Curriculum, Standards and Accountability Framework*, DETE Publishing, Australia, 2001.
- ² 佐藤博志「オーストラリアにおけるナショナル・カリキュラムに関する考察——実施過程を中心に」『比較教育学研究』第22号、1996年、pp.101-112。
- ³ South Australia (Department of Education, Training and Employment), *op. cit.*, p.5.
- ⁴ *Ibid.*, p.32.
- ⁵ なお、「アデレード宣言」で提示された学習領域は、「芸術」「英語」「健康と身体教育」「英語以外の言語」「算数・数学」「科学」「社会と環境の学習」「科学技術」の8つである。
- ⁶ South Australia (Department of Education, Training and Employment), *op. cit.*, p.11.
- ⁷ *Ibid.*, p.15.
- ⁸ South Australia (Department of Education, Training and Employment), *South Australian Curriculum, Standards and Accountability FRAMEWORK: Early Years Band (Birth to Year 2)*, p.290 (http://www.sacsa.sa.edu.au/ATT/%7B85CFF734-68DE-4F6D-A626-4EA1EDEC69C2%7D/SACSA_4_EYB.pdf (2007.03.07確認))。
- ⁹ *Ibid.*, pp.289-290.
- ¹⁰ *Ibid.*, p.293.
- ¹¹ *Ibid.*, p.301.
- ¹² *Ibid.*, p.309.
- ¹³ *Ibid.*, p.317.
- ¹⁴ *Ibid.*, p.291.
- ¹⁵ *Idem.*
- ¹⁶ こうした指摘は、たとえば、関根政美「アジア・太平洋国家への挑戦」(藤川隆男編『オーストラリアの歴史——多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣、2004年、pp.220-238)に見られる。

(博士後期課程)